

平成18年度 決算の概要

1. 一般会計の決算額は、歳入 18,396,918 千円（前年度比 3.8%の増）、歳出 17,984,444 千円（前年度比 3.9%の増）、差引形式収支で 412,474 千円となり、翌年度に繰り越すべき財源 27,552 千円を除いた実質収支では、384,922 千円の黒字（対前年度比 12.1%の増）となった。

特別会計では、歳入 10,830,356 千円、歳出 10,815,724 千円、差引 14,632 千円となった。各特別会計の歳入歳出とも増となり、全体で歳入 0.6%、歳出 0.3%の増となった。

また、企業会計全体では、収益的収支で収入 5,992,734 千円、支出 6,481,975 千円となり、差引 489,241 千円の損失となった。

2. 特徴点（一般会計）

- (1) 平成 18 年度の我が国経済は、輸出が好調に推移し、企業部門の好調さが、雇用・所得環境の改善を通じて家計部門へ波及したことにより、消費に弱さがみられるものの、景気は緩やかな回復を続けている。

- (2) 市税のうち市民税は、一部の法人の業績回復により 10.2%の増、固定資産税は、評価替えに伴い 4.6%の減となったものの、市税全体では 1.0%の増となった。

- (3) 投資的経費は、まちづくり交付金事業（コミセンおの・市民会館大規模改修、神戸電鉄駅周辺整備事業、市境等景観整備事業、黍田下住線整備事業、桜つつみ回廊事業など）、八ヶ池周辺整備事業、黍田下住線自転車歩行者道整備事業、ポケット景観整備事業、一般道路整備事業などで、総額 2,216,826 千円となった。

補助事業は、1,545,483 千円（対前年度比 66.9%の増）

単独事業は、663,888 千円（対前年度比 8.8%の減）

災害復旧事業は 7,455 千円（対前年度比 皆増）

- (4) 経常収支比率は、地方交付税及び地方譲与税の増により、経常一般財源の総額は増となったが、繰出金や扶助費に充当される一般財源が増となったため、前年度より 0.4%上昇し、91.2%（前年度 90.8%）となった。実質公債費比率は、16.7%（前年度 16.7%）、起債制限比率は 10.1%（前年度 9.8%）となった。

3. 国民健康保険特別会計は、歳入で 4,399,376 千円（対前年度 180,894 千円 4.3%増）、歳出で 4,393,337 千円（対前年度 186,468 千円 4.4%増）となった。

保険財政共同安定化事業の創設による共同事業拠出金の増(対前年度 185,582 千円 237.2%増)が歳出増加の主な要因である。

4. 老人保健特別会計は、歳入で 3,947,165 千円(対前年度 242,009 千円 5.8%減)、歳出で 3,990,672 千円(対前年度 230,098 千円 5.5%減)となった。

老人保健医療費対象者数の減により、医療諸費が 3,958,985 千円で 5.1%の減となった。

なお、歳入歳出差引不足額は、19 年度予算で繰上充用するものとし、その財源は国庫支出金等の追加負担を充てるものである。

5. 介護保険特別会計は、歳入で 2,483,815 千円(対前年度 123,151 千円 5.2%増)、歳出で 2,431,715 千円(対前年度 72,486 千円 3.1%増)となった。

要支援・要介護認定者が 18 年度末で 1,535 人(16 年度末 1,504 人)となり、保険給付費が 2,263,051 千円で 0.6%の増となり、また、地域支援事業費の皆増により 46,596 千円の増となった。

6. 企業会計

- 都市開発事業会計では、収益的収支で 594 千円の黒字。

資本的支出では、市道修景事業負担金(ハイテクタウン修景事業、市境等景観整備事業)の執行を行った。

- 病院事業会計では、収益的収支で 117,645 千円の赤字。

資本的支出では、中央処置室及び小児科観察室外改修工事、研修医住宅新築工事、医療機器の整備充実を図った。

- 水道事業会計では、収益的収支で 177,446 千円の黒字。

資本的支出では、老朽配水管布設替工事等を実施した。

- 下水道事業会計では、収益的収支で 549,636 千円の赤字。

資本的支出では、天神町鴨井地区の下水道整備、王子南地区の実施設計等を実施した。